

キャリア・インサイトを 活用した学生相談

短時間で気軽に適性診断し、就活への第一歩に

キャリアコンサルタント
神奈川大学 就職支援部就職課長
沖田智大

神奈川大学は、神奈川県内の横浜・湘南ひらつか・みなとみらいの3か所にキャンパスを持ち、文理合わせて8学部22学科2プログラムを設置、約1万8000人の学生が在籍する総合大学です。

1 導入の経緯と目的

「自分自身が何に向いているのかわからない」、「就活を何から始めていいかわからない」といった就職活動中の学生の声が導入のきっかけとなりました。

キャリアコンサルタントとして、キャリア・インサイト講習会を受講し、個人で使用していたこと、キャリア・インサイトが気軽に診断・評価を受けられるツールであること、また職業安定所などでも使用されていて、信頼性が高いことが導入の決め手となりました。

本学の就職課では、オリエンテーションやガイダンス、各種対策講座など、数多くの就職支援を実施しており、学生の個別相談も1回40分として、キャリアコンサルタントなどの国家資格を持つ専門の就職アドバイザーが対応しています。

就職アドバイザーへの相談の多くは、エントリーシート（ES）や履歴書の添削、面接対策などが主となって

おり、多くの学生が目への課題解決に向けて相談に訪れます。

しかし、中には目標を見失っている学生や自己肯定感の低い学生の姿も見受けられます。「どうしていいかわからない」、そのような学生には、まずは自己分析や職業について、短時間で気軽に適性診断ができるキャリア・インサイトの利用が就職活動への第一歩として位置づけられることが導入の最大目的です。

2 使用

本学就職課におけるキャリア・インサイトは、いつでも気軽に利用可能です。

本学3つのキャンパスすべてにキャリア・インサイトを導入しており、私の所属する横浜キャンパスの就職課には、4台のPCに設置しています。

キャリア・インサイトの利用は、就職課の開室時間内であれば予約なしで使用することができ、実施後は診断や評価結果をプリントアウトし、結果に基づきキャリアコンサルタントがフィードバックを行っています。

「ECコース」の適性診断コーナーなら1時間程度、総合評価コーナーであれば30分程度の所要時間で可能なことから、授業の合間や空き時間、また個人面談後などにも利用されています。

す。

近年、大学生の就職活動は、インターンシップから企業との接点を持ち、その後本格的な就職活動へと移行していきます。多くの学生は、大学3年生の夏休みを利用してインターンシップに参加しますが、中には2年生や1年生の低年次からインターンシップに参加する学生も見受けられるようになりました。

キャリア・インサイトは、就職活動を間近に控えた学生だけではなく、意欲の高い低年次の学生にも、自己分析や職業適性の評価が就活への一助となることを願っています。また、キャリアコンサルタント個人の主観的な考えではなく、信頼性の高い客観的な結果をフィードバックすることで、学生の自己を見つめ直し、そして自信を持つことができるツールであると考えています。

3 学生のプロフィール例と解説

大手ハウスメーカー営業職希望のAさん、「家族から○○○○は、向いていないから、止めなさい」と言われ、「自分自身、本当は何に向いているんだろ?」と、少し迷いが始まっていたことから、キャリア・インサイトを利用しました。

職業興味評価プロフィールでは、R



神奈川大学
横浜キャンパス

（現実的興味）領域とI（研究的興味）領域には関心が低く、E（企業の興味）領域に関心が高いことが表れており、リーダーシップを発揮したり、新しい企画を立案するような仕事に対しての興味が示されています。また、2番目にはS（社会的興味）領域が高いことから、人と関わる人が多いような仕事に興味を示しています。

行動特性評価プロフィールでは、リーダー、ジェネラリスト、負けず嫌いの特徴が表れており、Aさんの行動特性に合った職群としては、ジェネラリスト志向で組織人、負けず嫌いなタイプが多く含まれるという点から営業系が1位となりました。

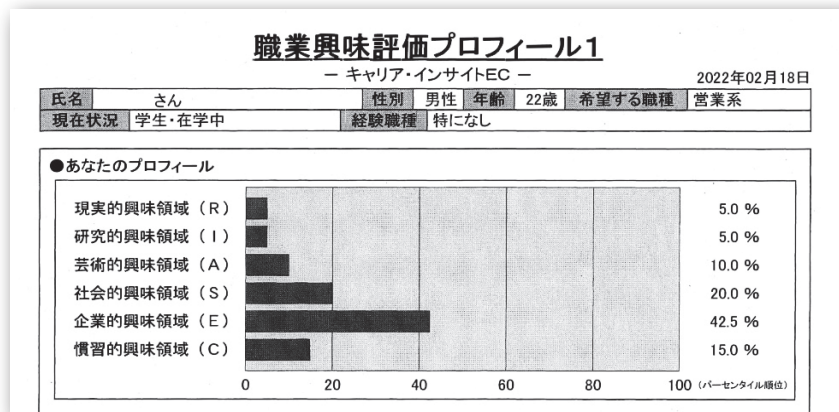
これらの結果をAさんに解説すると、「営業系に向いている結果が出て安心しました。これから頑張れます！」と何か吹っ切れたような笑顔を見せてくれました。

4 今後の課題や展望

コロナ禍となり、2年が経過しようとしています。

大学生の求人倍率は、コロナ禍前の1.83倍から2022年卒の1.50倍と低下しており、また企業による選考の多様化・オンライン化や早期化などの影響もあり、長引くコロナ禍による学生への影響が大きくなっています。

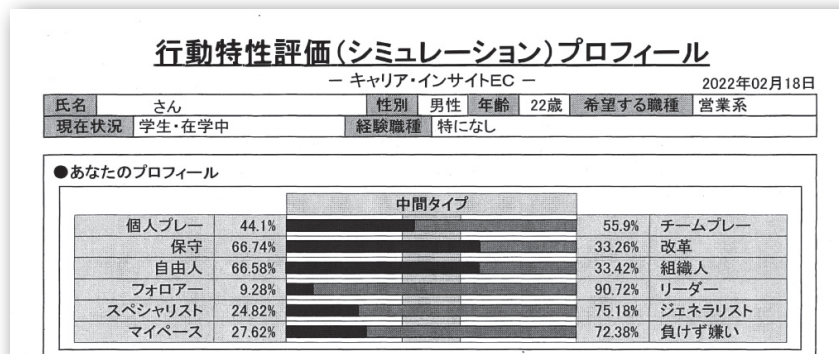
Aさんの職業興味評価プロフィール



特に、行動制限（入構制限）や大学の授業のオンライン化などにより、何気なく登校時に見えていた視覚からの情報や、先生や友達などから聞く聴覚からの情報が入りにくくなったことによる情報不足が就活生の二極化を招いています。

大学として、日々多くの情報が発信される中、就活情報をいかに効率的かつ効果的に学生に届けるか、大変悩ましく、喫緊の課題でもあります。

Aさんの行動特性評価プロフィール



キャリア・インサイトのような信頼性の高いツールを導入したことは、大変有意義であり、一人でも多くの学生が利用して、就活の一助となるようさらに利用を促進していきたいと考えます。